

するものに更正日本労働愛會（昭和八、八、四創立）あり、且つ昨年八月日本労働同盟の分裂以來今村等氏一派と行動を共にし日本主義に立脚して結成された日本産業軍閥閩縣支隊準備會あり、一時は準備行動の見るべきものありしが、幹部間の不統一運動資金の缺乏等の爲行惱みの状態である。従て産業軍支隊結成の上は其の母体として當然加盟するものと見られた國社黨系組合たる九州一般労働組合、九州礦夫組合及び日本石炭坑夫組合の三團體の勢力亦甚だ不振の状態である。次に左翼社會民主主義乃至合法共產主義系の組合として中間的存在たるものに、本年四月結成したる九州合同労働組合の改組と見るべき九州統一労働組合同盟を始め、西部嶺山労働組合、門司失業者同盟、若松沖仲仕労働組合等其の支部を合して十二團體、組合員數約壹千餘名を有するも、就中組

財團  
協調會福岡出張所

會員八百五十餘名を擁する九州統一労働組合同盟の日常闘争が果敢なりし外概して不振の状態であつたが、本年十一月日本労働組合全國評議會の結成は之等に達し相當の刺激を與へたので、目下靜觀的態度を保持しつつあるもやがて其の指導下に戦線の統一強化を企圖すべきは想像に難からざるを以て今後の活動は豫斷を許さない。

更に左翼の労働組合としては八幡失業者同盟、職夫同盟、同盟西部一般産業労働組合及びアナ系に坑夫組合九州聯合會ありて、四團體組合員數貳百名に足らず。就中八幡失業者同盟が八幡市に於ける失業者を糾合して市當局に對し日常深刻なる抗争を繰り返しつつあると、本年七月結成したる西部一般産業労働組合は十一月全評の結成と共に之れに参加したのであるが、其の日常闘争過激にして飯塚市を中心に炭坑労働者に

財團  
協調會福岡出張所